

ふでしん

7

立川と語ろう 立川に生きよう
July 2004
écoutez bien Vol.22 No.236





夏、多摩川は水に親しむ人々でにぎわう。

子どもたちの川遊びや釣り人だけでなく、水を友にしたウォータースポーツも盛んだ。

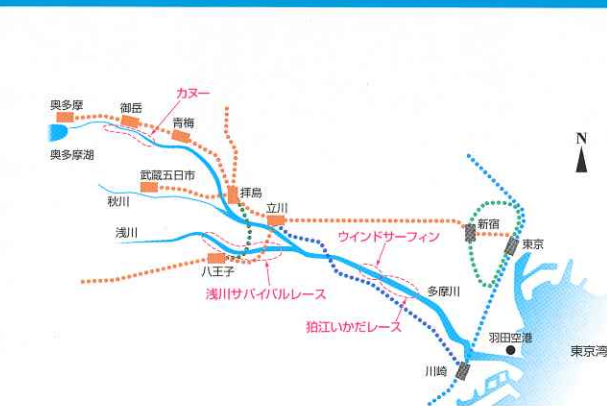
支流の浅川や本流の粕江では毎年筏レースが開かれる。

多摩川の水にひたって

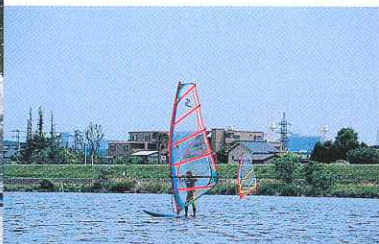
ウォータースポーツの季節



多摩川上流はカヌーやボートの格好のコース



中流調布市付近のウインドサーフィン



手作り筏でにぎわう浅川サバイバルレース



多摩川上流、青梅から御岳にかけては、いくつものカヌースクールや競技コースがある。週末には溪流に色とりどりのカヌー、ボートの華が咲く。水面と同じ高さでパドル（櫂）を操り急流を軽々と乗り切る。水と一体になった動きは見る者まで爽快にする。

流れの穏やかな中流域、調布付近にはウインドサーファーが集まる。川面を風を受けて滑る大きなセールがいくつも並ぶ。マンションや工場、道路、鉄橋といった都市風景のなかで多摩川は貴重な自然と遊びの空間だ。毎年7月、浅川と多摩川本流では手作り筏レースが行われる。浅川は11キロ、粕江付近の本流では1キロ余を、思い思いのデザインの筏が下る。レースの勝敗よりも川に入ってひたる水の感触が楽しい。

多摩川延長138キロ。12回の連載ではとてもまとめきれない豊かで多彩な自然と人々の姿があった。また一緒に散歩する機会を楽しみに、ひとまず最終回。

立川は文化のまちづくりの実験場なのです



2004 たちかわみんなの音楽祭実行委員長
村田 光男さん

■村田光男（むらた・みつお）／新潟県生まれ。東京弁護士会所属弁護士。東京三弁護士会多摩支部高齢者・障害者の権利委員会委員長、立川市子ども支援ネットワーク委員、たちかわ子ども21プラン策定市民委員会委員、立川市・国分寺市・福生市の高齢者相談担当など。また、地域の文化活動にも熱心に取り組む、立川市地域文化振興財団理事、弁護士・税理士・司法書士・行政書士等からなる十士文化連盟世話人、「ロバの音楽座」の後援会であるロバの会代表。今年4月のたちかわみんなの音楽祭「春わくわく」では実行委員長をつとめた。

■芳賀敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集人

於：錦町 村田光男法律事務所
写真：五来 孝平

芳賀 村田さんには2年前『今だからおとな子どもがいきいき育つ発想法』という著書を出されたときにもえくてびあんにご登場いただきましたが、今日は昨年、今年と実行委員長をされた音楽祭のことです。4月20日から25日まで国営昭和記念公園を中心に開かれた「2004 たちかわみんなの音楽祭 春わくわく」。最終日にうかがいましたけど、広い公園のあちこちで、たくさんの人たちが音楽を楽しんでいました。

村田 いらしてんですか？ ありがとうございます。最終日の25日（日曜）、昭和記念公園の来園者が3万6000人、新名称が付いたサンサンロードでの「まちなかライブ」に4000人、さらに20日から25日まで昭和記念公園立川口に建てたサーカステントでの「春わくわくテントWEEK」に

有料にもかかわらず800人の方が来てくださいました。これは25日配布の資料なんですけど余部がないので今コピーを……。

芳賀 あれ？ その「春わく新聞」なら会場でいただいたのを持ってますよ。

村田 それはよかった！ 1万5000部用意したのですがあつという間になくなって、私のところには1部しか残っていないんです(笑)。

芳賀 大盛況だったのは立川のまちを音楽であふれさせようという活動がそれだけ定着してきたからです。ところで、去年まで「たちかわの夏 音楽祭」という名称で親しまれてきたのに今回名称が変わりました。

村田 そのあたりからお話しした方がいいですね。一昨年の2002年まで国と立川市の助成を受けて「たちかわの夏 音楽祭」「立川国際芸術祭」「立川舞台芸術フェスティ

バル」という三つの柱で、立川文化のまちづくり事業が5年間行われました。それぞれ成果があったのですが、いわばタテ割りで動いていました。助成金が打ち切りになった2003年、立川国際芸術祭の一部の方々、立川舞台芸術フェスティバルの一部の方々、たちかわの夏音楽祭実行委員会、そして立川青年会議所(JC)が連携して市民中心の実行委員会を作り、新しく「たちかわみんなの音楽祭」を企画し5月18日に昭和記念公園で開催しました。この中でJCが、長く昭和記念公園で行ってきた春の「キッズフェスティバル」吹奏楽1000人コンサートを開催するとともに「たちかわみんなの音楽祭」全般に協力して下さいました。「たちかわみんなの音楽祭」というのはその昨年付けた名前なんです。今年4月に開催した「たちかわみんなの音楽祭 春わくわく」では、芸術祭、舞台フェス、夏音楽祭とJCが関係を深め、一層中身の濃い春の音楽祭&芸術祭が実現しました。こうしたことで、従来の「たちかわの夏 音楽祭」は「たちかわみんなの音楽祭」に様変わりしたんです。「……春わくわく」は「2004 たちかわみんなの音楽祭」のプレリユード(序章)にあたるもので、この後、夏、秋、冬と企画がくり広げられます。

芳賀 行政の助成を受けた行事から市民の手で作り上げる活動に、というのは質的にまったく違うほどの変化ですね。こういうことを言って申し訳ないですが、まずお金をどうする？ という大問題がある。

村田 大変でしたよ、本当に！ 実行委員が関わる企業や非営利の団体から、わずかでも協力いただけるよう動きまわりました。私も自分が関わる十士文化連盟やロバの会からいくら、文化にご理解のある地元企業からいくらとね。ただ、協賛金集めで私よりもずっとご苦労いただいた委員の方々が、大勢いらっしゃいます。JCの皆さんを中心に頑張り、なんと開催一週間前に何とか目途を立てました。苦労はしましたが、一週

間開催する音楽祭に向けて約半年間、立川の実にさまざまな市民が集まり、意見や知恵を出し合い、ときに激しく議論しながら、協働して獲得した人間関係、体験などなどの無形の成果はとてもお金で換算できません。サーカステントに椅子の高齢者の方々が付添の方たちと何十人もご来場いただいた心暖まる光景が忘れられません。音楽祭はひとつの芸術文化活動ですが、そうしたかかわりが立川のまちづくりそのものでした。

芳賀 まちづくりというと、どちらかといえば行政的なもので、道路を作ったり大きなハコものを作ることを言うことが多いんじゃないですか？

村田 私は自分がかかわっていることすべてがまちづくりだし、文化活動だと思っています。25年近く前のことになりましたが、司法試験の準備をしていた頃、東大教授であった芦部信喜さんという方の論文の中に、民主主義の基本は何かとあり、それは市民の基本的な人権の尊重であり、他の原理は基本的人権の尊重から導き出せるのだと書いてありました。民主主義というすぐに多数決の原則とか三権分立、さらに平和主義などを思い浮かべがちであった私には驚きでした。基本的人権はそもそも国民の自由への干渉を排除し、また国民に福祉・教育等のサービスを提供させるためのものなのですが、ふだん私たちにとって国家という地域は実感できません。私たちはこのまち、この地域に生きています。そこに暮らして誰もが個人として幸せを感じられることが民主主義の基本で、それを目指すことがまちづくり。私が関わっている子どもの人権問題とか教育問題、高齢者・障害者問題などもすべてがまちづくりのためであり文化活動なんです。交通渋滞をなくすのも、安心して歩ける道路を作るのも、繁盛する商店街を作るのも……。私は立川はひとつの壮大な実験場となって文化のまちづくりを発信していく拠点になる資格があると思っています。多様な市民と有能な行政の方々がいるからです。今回の音楽祭はその始まりなんです。ちょっと大風呂敷かな(笑)？

芳賀 いえいえ。立川は日本の中心だ！ と言ってしましましょう(笑)。みんなの音楽祭がまちづくりにつながり、立川から新しいまちづくりが始まるなんて、わくわくしますよ。

村田 よくヒト、モノ、カネ、情報といいますが、いろいろな人が交流して情報や知恵を交換すること、その結果生まれたものが文化なんです。今年4月の春わくわく音楽祭では、先ほどの三つの柱全部がジョイントして参加し、また、長年立川の文化のために貢献してこられた立川文化協会さんもお後援くださいました。立川市や立川市地域文化振興財団もおカネは出ませんでしたが(笑) ヒト・モノ・情報の面で全面的にご協力くださいました。市議会議員の方たちも16名もの皆さまがご賛同して来てくださった。これまでとは違う構造が生まれ、立川が変わっていくというのがはっきり見えたと思っています。その意味で、この半年間の準備期間は短かっただけにものすごく凝縮された経験ができました。

芳賀 音楽祭を実現するまでに蓄えられた人の関係や経験、知恵というのは、確におカネでは得られない共有の財産ですものね。

村田 そうです！ 今回、ニューヨークを拠点にしているオペラの世界では有名な小濱妙美さんというソプラノ歌手に出ていただいたのですが、世界的歌手がメイクや髪も地元の美容師さんにボランティアでしてもらい、早朝に強風下のステージで30分練習なすり、昼、風は止んだものの条件の良くない野外ステージで30分歌い、室内の劇場では得られない感銘を与えてくれました。小濱さんには言いませんでしたが、彼女にとっても貴重な財産になったと思うんです。国営昭和記念公園の職員の皆さん、黙々とテントの設営・撤収などの裏方をくださった方々を含めて、この音楽祭に参加したすべての人の心に、おカネに換算できないたくさんの無形の良質な財産が蓄積された信じています。もちろん私も、もうたっぷりいただきました(笑)。立川のソフト面のまちづくりは確実に始まりました。

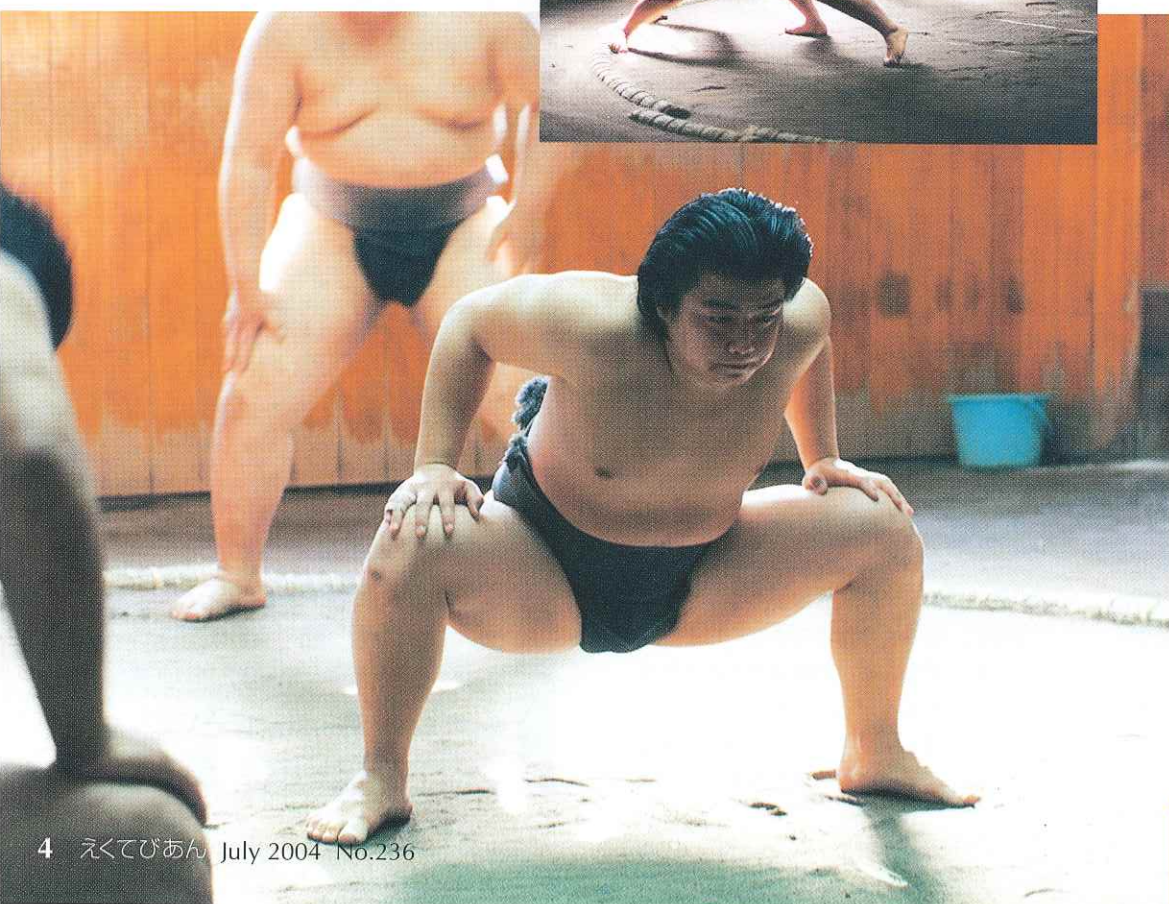
砂川町	JA経済センター 立川店	砂川町2-44-3 536-1824
	JA東京みどり 立川支店	砂川町2-44-3 536-1821
	多摩中央信用金庫 砂川支店	砂川町4-2-3 535-4411
	スリランカカレー アジアンフーズ	柏町1-13-9 535-0876
柏町	ペーカリー リオンドール	柏町3-3-5 535-4882
	ピーコック 玉川上水店	柏町4-1-2 538-3861
	菅 家 医 院	柏町4-2-15 536-4602
	うなぎ専門店 うなちゃん	柏町4-61-13 536-6240
京町	レストラン&BAR WEST PORT	柏町4-64-3 536-4569
	東京消防庁 立川消防署	京町1156-1 526-0119
	陸上自衛隊 立川駐屯地	緑町5番地 524-9321
	うなぎ し ら 澤	曙町1-9-21 524-5061
曙町	甘 泉 堂	曙町1-14-12 522-4305
	有限会社 久住不動産	曙町1-16-2 522-4739
	不動産 大 晋 商 事	曙町1-23-9 525-3110
	蕎麦懐石 無 庵	曙町1-28-5 524-0512
町	TABACCONIST ゼフィルス	曙町1-28-9 524-0514
	ビストロ シェ・タスケ	曙町1-28-14 527-5959
	あら井鮎総本店	曙町1-30-13 522-2957
	Cut Studio SOFIA	曙町1-30-21 528-3241
えくてびあんの輪 立川と語ろう 立川に生きよう えくてびあんは リストのお店にいつもあります		
今月は 砂川町・柏町・京町・緑町・曙町のお店です。		
曙町	三田花店 ルミネ立川店	曙町2-1-1-1F 527-5587
	KIRIN COFFEE ルミネ店	曙町2-1-1-1F 527-2322
	オリオン書房 ルミネ立川店	曙町2-1-1-7F 527-2311
	東京赤十字血液センター	曙町2-1-1-9F 527-1140
曙町	和生菓子製造直売 日の出屋 本店	曙町2-2-18 522-3308
	オリオン書房 第一デパート店	曙町2-2-25-3F 523-3311
	みずほ銀行 立川駅前支店	曙町2-4-6 522-5151
	みずほ銀行 立川支店	曙町2-4-6 524-3121
町	お菓子の家 エミリーフロゲ 本店	曙町2-5-1-1F 527-1138
	カフェ クリム ト	曙町2-5-1-2F 526-3030
	宮地楽器 MUSIC JOY 立川北	曙町2-5-18-7F 527-6888
	三井住友銀行 立川支店	曙町2-6-11 522-2151
町	Italian Cuisine サヴィニ	曙町2-7-10 525-1662
	Art&Caffee Room 新紀元	曙町2-7-21-4F 528-6952
	多摩中央信用金庫 本店	曙町2-8-28 526-1111
	たましんギャラリー	曙町2-8-28-9F 526-1111
町	三 上 鯉 節 店	曙町2-8-30 522-3259
	旬彩懐石 若 草 茶 屋	曙町2-8-30 526-0010
	真如苑たま広報センター Mare	曙町2-9-1 521-6201
	OPTIC ISHIDA	曙町2-11-2-4F 528-4146

がんばれ、 われらが浜栄光。

中学日本一から大相撲に

平成12年、全国都道府県中学生相撲選手権大会に優勝した石田哲也君(富士見町)が、大相撲で活躍している。強豪埼玉栄高校から昨秋三保ヶ関部屋に入門し、「浜栄光」の四股名で4場所連続勝ち越しを決めている。厳しい勝負の世界に踏み込んだ立川っ子。がんばれ、浜栄光！

写真：五来孝平



三保ヶ関親方(元大関増位山)



東の花道奥で順番を待つ



5月23日大相撲五月場所千秋楽、両国国技館に「東京都立川市出身 三保ヶ関部屋」のアナウンスが流れた。三段目東100枚目、浜栄光。200キロの巨漢相手の対戦、行司の軍配は東にあがった。引き落として浜栄光の勝ち。6勝1敗(幕下以下は7日間)の好成績を残して本場所が終わった。

大相撲は夢だった。大学進学も考えたが、小学校5年生以来の目標であり指導も受けてきた元小結濱ノ嶋関(現尾上親方)の「やるのなら早いほうがいい」という勧めで高校卒業を待たずに三保ヶ関部屋入り。昨年十一月場所福岡で初土俵を踏んだ。

力士としては小兵。体重も100キロに満たない。鋭い立ち合いとスピードが身上だ。本場所で体が動くためには、日々の稽古を積み重ねるしかない。平日は早朝から他の新弟子たちと一緒に相撲教習所に通い、基本稽古を中心にみっちり体をいじめる。実技以外にも相撲史や書道、運動医学、相撲甚句といった講義もある。週末は部屋の稽古。本場所後の自由時間にも母校の埼玉栄高校に出向いて稽古……。

五月場所中に引退した尾上親方の付け人としてもかいかいしく動き、弟弟子の出世披露付き添いなど、角界の伝統と集団生活の中で学ばなければならないものは多い。7月の名古屋場所では三段目でも番付けが上がる。テレビに雄姿の映る日が待ち遠しい。

多摩エリアの情報
コミュニケーションサイト！

http://www.tamabako-net.ne.jp/

常楽我浄
真如苑提供番組くじょうくじょう

スカパー・ケーブルTV 216ch、マイ・テレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更の場合がございます。

立川に育てられて六十八年
真如苑
柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

この夏、シネマ2オープン

5館1250席をプラスして
シネマシティは合計11スクリーンに
http://www.cinemacity.co.jp/

私たちは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客様……
いろいろなコミュニケーションがあります。
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、
行っている会社です。

と

大廣社は、企画デザインから
印刷加工までを自社内で行っています。

PLANNING・DESIGNING
PROCESSING・PRINTING
大廣社
042-527-1911

〒190-0022
東京都立川市錦町5-17-13
TEL 042-527-1949
FAX 527-1949
E-mail info@daikousya.jp

夏はやっぱりレインボープール！

暑ければ暑いほど楽しいものな～んだ？ 答えは昭和記念公園レインボープール！ 広さは東京ドームの1.4倍。9つのプールがあって楽しみ方はいろいろ。水遊び、ウォーターライダー、流水プール、大波でビーチ気分を味わったり、時には滝に打たれて気分爽快。園内はすべて水着でOK、昭和記念公園全体がプールサイドになっちゃいます！ サイクリングやバーベキュー、パターゴルフで楽しんだら、またまたプールで遊んじゃおう。プールへの再入場は当日限り何回でもフリー。プール開設期間は7月17日～9月5日（期間中は無休）、料金は大人2200円、小人1200円、幼児300円です。



えくてびあん読者にラッキーチャンス！

昭和記念公園レインボープールペア招待券を抽選で10名様にプレゼントします。はがきに住所・氏名・年齢・電話番号・月刊「えくてびあん」読後感想や要望をご記入いただき、下記宛先までお申し込みください。締め切りは7月31日。当選発表は招待券発送をもって代えさせていただきます。宛先：〒190-0012 立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F えくてびあん編集工房「レインボープール招待係」

この人この店 ⑫

タイ料理レストラン CHERN-CHIM (チューン・チム)

オーナー 木村隆寛さん



立川通り高松町二丁目バス停近くに見えるさわやかな三色旗が目印。その名もCHURN-CHIM、タイ語で「いらっしゃいませー味見して」という意味だそうです。階段を降りるとオーナー夫人ナルモンさんの人なつこい笑顔が迎えてくれます。タイ料理を始めたのは「おいしいから」というオーナーの木村さん。「タイの食文化は米文化、だからお米に合う味なんです」と言います。なるほど何を食べてもごはんが欲しくなりごはんと一緒においしい。酸っぱい辛いにハーブが効いて、暑い季節にはもってこいのエスニック。サラダ、スープ、肉料理や麺類など、豊富なメニューが揃っています。11時から始まるランチは家庭料理でとってもヘルシー。ごはんのおかわり自由で680円～780円。ナルモンさんの笑顔に見送られて、とても得した気分です。



〒190-0011 立川市高松町2-9-21-B1
TEL 042-521-4558
営業時間
11:00～14:30 17:00～22:00
定休日 水曜日



パパイヤのサラダ 980円 タイ風焼きそば 780円 トムヤムクン(大) 1500円

写真：五来孝平

僕のマーチン・ダイサート

森 忠明

劇団四季創立50周年記念自由劇場柿落とし公演「エクウス」に招待された。英国のピーター・シェーファー氏が三十年以上前に発表した少年A(役名アラン・ストラング)についての、暗箱解剖的ドラマ。〈神〉と崇めていたはずの愛馬六頭の目を、ピックで突き刺すという実際にあった少年犯罪をもとにしている。

「現代日本の少年Aに面接授業をした森さんを、ぜひ招待するべきだ」と『週刊朝日』の記者の方に教えられました。制作部の佐野女史はそうおっしゃった。

精神科医マーチン・ダイサートに扮する日下武史氏が、己の能力の限界や「欠陥商品」としての心理療法に焦燥し、アラン・ストラングを解読できずにいることへの懊悩を語る姿に、私は立川共済病院神経科医長・小泉先生の思い出をかきねていた。

昭和三十四年(一九五九)の春頃から翌年の末まで、立川二小に通わず、群馬や山梨の温泉に祖父の金で自分を隔離していた私は、月に一度くらい小泉医長の顔が見たくなり、タチカワに戻った。

小四まで優等生だった私は小五直前の春休みに突然狂惑。その地獄の季節はなるべく振り返りたくない。学校や家から離れなければ、いつ自他を危めるかわからないほどの破壊衝動を持つ変態小学生になってしまったのである。母は怯え、私を真澄寺(真如苑)に連れてゆき、加持祈禱をしてもらった。



挿画：野崎義成

「人間がさからいたいある内部の力によってその現実の通常の状態と位置から引き離され、今までの現実との生きた接触を失い、無気味な孤独な未知の圏に引き入れられて行く心理、いわゆるverrückte(「狂気した」という意味と「移された」という意味があります)」というこの状態が「二重人格」について。(霜山徳爾氏・ドストエフスキー作「二重人格」について)。

森少年と大文豪の作中人物とを並列するようで僭越のそしりは免れないが、あの、どうしようもないアンコントロールの恐怖は、体験者にしか共感できないだろう。

西国立駅の近くにあった神経科病棟は、失礼ながら廃屋めいた外観。也風流、というか、非権威的たたずまいがこえて私を安心させた。その薄暗い診察室で、皺が目立つ白衣を、ちよつとだらしない着た初老の先生が、落伍少年M(私)を、茫味たる面持ちで待っていた。

先生は注射も打たず薬も出さず、「森くんはどんな女の子が好きなんだい」なんて調子で十五分あまりの世間話。

(このての大人のいるならこの世はマンザラでもねえな)と私は思った。先生のフルネームを四十五年間も知らずにきた。昨日、立川中央図書館所蔵の『我等の立川』(都民新報社・昭和三十二年刊)で調べたら、小泉哲夫というのであった。

群馬 直美さん(羽衣町)

どこにでもあるような草木の葉っぱや木の実を、精緻極まるテンペラ技法で描く画家にして、和太鼓奏者とともに各地でパフォーマンスを演じるダンサー。住まいのある羽衣町から富士見町の倉庫の2階のアトリエに通い制作中は小さな対象に神経を集中する画家と、全身を表現手段に想念と情念を解放するダンス——対照的な活動のように見えるが、どちらにも、うちに秘めた表現への熱心が注がれている。7月から8月まで、約1カ月にわたってダンスと太鼓の公演でアメリカ、ヨーロッパを巡る。

富士見町のアトリエ近くで 写真：細江英公

かたこと

早いもので、数カ月の休刊を経て昨年8月号から再スタートしたえくてびあんも本号でちょうど一年経ちました。年間企画のページは最終回です。連載の終わりはいつも少し寂しいものですが、8月号からの新連載の準備も最終段階。一年間ありがとうございました。そしてこれからも楽しみにお待ちください。▼昨年の夏はあまりお日さまが照らず寒い日もありました。その分過ごしやすくもありましたが、今年はどうなのでしょう？ ジリジリ照りつける陽射しやいつまでも続く残暑を思うと今から気が重くなりますが、暑い時期は暑く、寒い季節は寒いのがいいのかもしれないかもしれません。▼暑くても寒くてもお相手さんは毎日早朝から回しひとつで稽古。VIEWでご紹介した石田哲也君改め浜栄光。流した汗が人を大きくします。大相撲での活躍をえくてびあんも応援しています。▼こういう時期こそ、冷房の効いた部屋から外に出てみましょう。多摩川の水やプールが涼を与えてくれ、街や広場ではいろいろなイベントが開かれています。▼4月下旬国営昭和記念公園で開かれた「2004たちかわみんなの音楽祭 春わくわく」は楽しい野外イベントの季節の到来を告げました。実行委員長の村田光男さんとお話していると文化によるまちづくりの壮大な夢が広がります。夢を現実のものにしていきましょう。一歩ずつ。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMNET design factory
写真 五来孝平

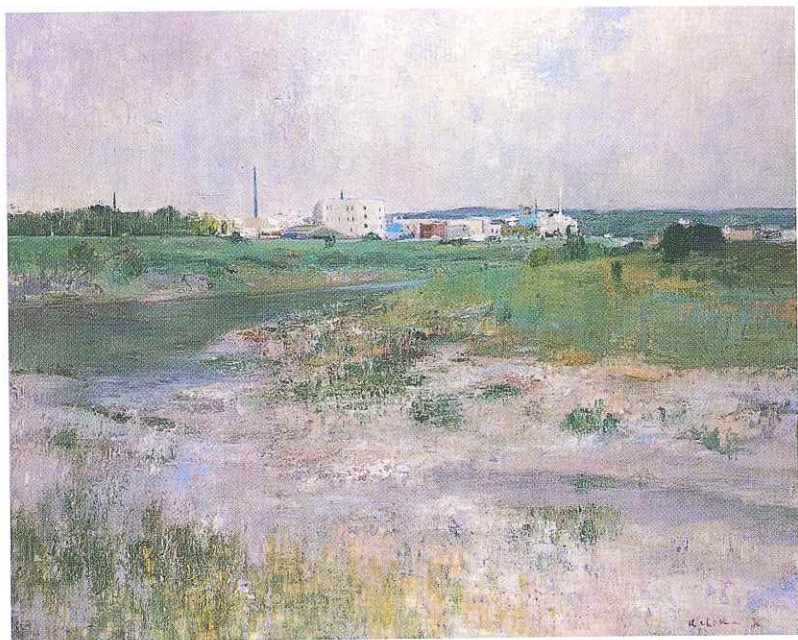
えくてびあん 7月号

第22巻 通巻236号
平成16年7月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 加賀悦也
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

◆◆ 川の肖像 ◆◆

知久正義の世界 [最終回]



「多摩河畔」

1996年 100F

一年間の連載も最終回を迎えた。今回は国立と府中の境界あたりの作品である。河岸までの間に豆腐形の古いコンクリートがまたぐほどの間隔で南北に連なっていた。そこをつたって行くのに、歩幅が少しきこちなかったことが印象に残っている。

この付近は、私にとって河のすべてを五感でとらえたような場所であった。河原の地形は画心を喚起させ、より美しいフォルムを探求せよと問いかけてくる場所でもあった。

点在する水溜まりは大空を映し、川面をなでる川風は本流の緑と一体化して、七月の土手へと駆け上がっていく。その姿は多摩川の自然そのものである。

人工物と大自然、すべては個別なものではない生きものとして呼吸している。将来もこうしたパランスのとれた多摩川であってほしいものである。